

このページの検討項目

| | | | |
|----------|-------|--------|-----------|
| 時代の潮流の評価 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向性 |
| 地域の役割の評価 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

以上、4つの視点で見てきた評価をとりまとめて、地区の課題を抽出、整理します。
整理に当たっては、そのまま守っていくべき施設や機能（保全環境要素）、良好な環境や環境づくりを阻害している施設や状況（阻害環境要素）、より良い環境づくりに欠けている、あるいは足りない施設や機能（不足環境要素）の3つの視点で整理します。

| | 2-1 保全環境要素の課題 本地区の特色を生み出したり、良好な環境を作り出している施設や機能などでそのまま守っていくべきもの | 2-2 阻害環境要素の課題 健全で良好な市街地を形成する上で環境や環境づくりを阻害している施設や状態で取り除くべきもの | 2-3 不足環境要素の課題 健全で良好な市街地環境づくりに欠けている、あるいは不足している施設や機能で補うべきもの |
|-------------------------|---|--|--|
| 1-1 現在の時代の潮流からみた評価【】 | ①定住人口が減少に転じる社会で考えておくべきこと ☆現在の人口増加傾向 県下で4位の伸び率を維持している現在の人口増加傾向 ☆無秩序な拡大を行わなかった市街化区域の規模 市の人口の増加に対して旧来より保全されてきた市内の市街化調整区域や海に囲まれた市街化区域 | ☆将来の人口減少傾向への転換 2020年ごろをピークに減少に転じることが予測されている市の人口減少への転換 ■災害時の危険性を回避するための住宅地等での防災性の向上推進 | ●利便性の高い中心市街地環境を活かすために土地の高度利用推進、都市居住のできる魅力ある居住環境創出 ●海岸部観光拠点の中継点として交流人口を受け止めるためににぎわいのある商業空間やオープンスペースの確保 ■中心ゾーンへのアクセスの充実、緑豊かなゆとりある敷地の低層の住宅地への誘導 |
| | ②少子高齢化が進行する社会で考えておくべきこと ☆バリアフリーへの取り組み 「藤沢駅周辺地区移動円滑化基本構想」に基づくバリアフリーへの取り組み | ☆市の活力の低下 年少人口の減少による市の活力の低下 | ●若い世帯が居住可能な都市型住宅等の住宅環境の創出や育児支援環境の充実 ■誰もが日常的にまちづくりの運営管理活動に主体的に係わる環境づくりのさらなる推進 ▲誰もがまちなかで快適に過ごせるように段差の解消や、福祉のまちづくりの考え方に則った施設整備 |
| | ③成熟型の経済成長となった社会で考えておくべきこと ☆観光資源の存在 年間約1,340万人の観光客を吸引する江の島や海水浴場等の観光拠点の存在 | ☆商業活力の低下 市全体の商店数の減少、本地区の市内における商業シェアの低下 | ●海岸部の観光拠点の中継点として、湘南等をテーマとした自立型の都市経済の確立 ●乗り継ぎ点、通過点ではなく、まちなかを回遊したくなる吸引力をもった用途の誘導や魅力ある都市空間の創出 |
| | ④環境負荷をかけないまちで考えておくべきこと ☆藤沢市緑の保全及び緑化の推進に関する条例 屋上緑化を含めた民間建築物への緑化推進 ☆平坦な地形 環境に配慮できる自転車を利用しやすい比較的平坦な市の地形 | ☆ヒートアイランドの進行 大都市部や県内陸部などを中心に年々拡大しつつあるヒートアイランドの可能性のある区域 | ●オープンスペースの確保や緑化の推進、風の道の確保によるヒートアイランドの予防推進 ■住宅地の植栽の充実や自然エネルギーや雨水の活用などの推進 ▲電車やバスなどの公共交通の充実や自転車環境などの整備 |

| | | | |
|----------|-------|--------|----------|
| 時代の潮流の評価 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向 |
| 地域の役割の評価 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

| | 2-1 保全環境要素の課題 本地区の特色を生み出したり、良好な環境を作り出している施設や機能などでそのまま守っていくべきもの | 2-2 阻害環境要素の課題 健全で良好な市街地を形成する上で環境や環境づくりを阻害している施設や状態で取り除くべきもの | 2-3 不足環境要素の課題 健全で良好な市街地環境づくりに欠けている、あるいは不足している施設や機能で補うべきもの |
|--------------------|---|--|--|
| 1-1 現在の時代の潮流からみた評価 | ⑤暮らしやすい、人に優しいまちにするために考えておくべきこと ☆バリアフリーへの取組み 「藤沢駅周辺地区移動円滑化基本構想」に基づくバリアフリーへの取組み ☆福祉サービスの取組み 市の給食サービスやホームヘルプサービスなどの福祉サービスへの取組み | | ●鉄道やバスなどの相互連携改善による交通利便性向上 ●鉄道南北の連携のさらなる向上 ●ユニバーサルデザインに配慮した定住人口、交流人口ともに利用しやすいまちづくりの推進 ●誰にでもわかりやすい案内、誘導のサインなどの充実 ■誰もが移動しやすい道路や交通手段の整備、福祉施設等の拡充 |
| | ⑥安全で安心して暮らせるまちにするために考えておくべきこと ☆防犯計画の策定 公共施設等に関する防犯上のガイドラインや地域別防犯計画を市や各地域の組織が策定 ☆防災計画の策定 地域防災計画を市が策定 | ☆細街路未整備地区の存在 地区内に細街路が未整備な地区が存在 ●オープンスペースの拡充や建物更新の時期を捉えた防災性向上 ●監視カメラの設置や防犯体制の充実による防犯性向上 ●都心部にふさわしいよりよい業種や業態への誘導 ■都市施設が不十分な地区での適切な道路ネットワークの構築 | ☆治安の悪化への対応 市民アンケートでは治安の悪化を感じる人は多くなっているが防犯活動への参加意欲は低水準 ●集中する自動車、歩行者動線の整理による安全性の向上 |
| | ⑦楽しく、気持ちよく過ごせるまちにするために考えておくべきこと ☆景観計画の策定 H18に景観法に基づく藤沢市計閲計画を策定 ☆文化芸術等の活動 藤沢市民オペラやあんどん物語など開催 ■旧東海道の歴史などを活用した景観形成やまちづくり活動の推進 ■住宅地の形態や色彩などのルールの導入による環境の保全や創出 | | ☆地区計画の活用拡大 特色のあるまちづくりのための地区計画は地区内では一部地区のみで活用 ●人が集まる地区であり景観計画に則った地区特性に応じた景観計画の推進 ●景観の創出、維持管理のために地区の人による主体的な関与 ●まちかどで文化芸術等の活動ができる場の提供や、特色ある店舗などの集積誘導 |

● : 中心ゾーンに係わる課題 ■ : 周辺ゾーンに係わる課題 ▲ : 両ゾーンに係わる共通の課題 ☆ : 市全体に係わる課題

このページの検討項目

| | | | |
|---------|-------|--------|-----------|
| 時代の潮流の評 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向性 |
| 地域の役割の評 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

| | | 2-1 保全環境要素の課題 本地区の特色を生み出したり、良好な環境を作り出している施設や機能などでそのまま守っていくべきもの | 2-2 阻害環境要素の課題 健全で良好な市街地を形成する上で環境や環境づくりを阻害している施設や状態で取り除くべきもの | 2-3 不足環境要素の課題 健全で良好な市街地環境づくりに欠けている、あるいは不足している施設や機能で補うべきもの |
|--------------------|---------------------------------|---|--|--|
| 1-1 現在の時代の潮流からみた評価 | ⑧ストックを活かしたまちづくりを進めるために考えておくべきこと | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">☆公共施設アドプト制度 美化ネットふじさわで道路や公園などの清掃活動の実施</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fce4ec; padding: 5px;">●地区の再構築を行うにあたって、必要性、緊急性、整備効果等を総合的に勘案しストック活用を含めた手法選定</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; padding: 5px;">■既成市街地の歴史や生活などの地区特性を勘案した整備</div> | | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">☆地区の機能改善 各種事業によって整備された都市基盤等の老朽化や機能低下に対する更新を推進</div> |
| | ⑨コンパクトなまちづくりにおいて包括的に考えておくべきこと | <div style="border: 1px solid black; background-color: #fce4ec; padding: 5px;">●境川緑地までを東限とする商業系土地利用の枠組みを維持し、商業地の外延化を抑制</div> | | <div style="border: 1px solid black; background-color: #e8f5e9; padding: 5px;">▲都心部としてのストックを維持しつつ、老朽化や機能低下に対して機能更新を推進し、吸引力を増すことでコンパクトな都市構造の形成に寄与</div> |

● : 中心ゾーンに係わる課題
 ■ : 周辺ゾーンに係わる課題
 ▲ : 両ゾーンに係わる共通の課題
 ☆ : 市全体に係わる課題

このページの検討項目

| | | | |
|----------|-------|--------|-----------|
| 時代の潮流の評価 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向性 |
| 地域の役割の評価 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

| | 2-1 保全環境要素の課題 本地区の特色を生み出したり、良好な環境を作り出している施設や機能などでそのまま守っていくべきもの | 2-2 阻害環境要素の課題 健全で良好な市街地を形成する上で環境や環境づくりを阻害している施設や状態で取り除くべきもの | 2-3 不足環境要素の課題 健全で良好な市街地環境づくりに欠けている、あるいは不足している施設や機能で補うべきもの |
|----------------------|---|--|---|
| 1-2 地域の果たすべき役割からみた評価 | <p>☆上位計画の位置づけの維持 湘南都市圏域の広域拠点として位置づけられており、周辺都市に対して相対的に高い商業・業務機能の集積、交通結節点としての機能の維持</p> <p>●広域圏への通勤通学、江の島等への観光の起点・中継点となる玄関口としての機能の維持</p> | | <p>●日帰り中心から滞在型への観光形態の移行を促す魅力ある都心空間、宿泊施設のストックの整備</p> |
| 1-3 経済環境の状況からみた評価 | <p>●大型店が集積した藤沢市随一の商業・業務集積の維持</p> | <p>●建物中高層部における空き店舗による活力喪失の回避</p> <p>●1階部分の空店舗の増加によるにぎわい喪失の回避</p> <p>●大型店の撤退や店舗数の減少等によるシェアの喪失、中心性の喪失の回避</p> | |
| 1-4 地域のストックの状況からみた評価 | <p>●湘南というブランドイメージの維持</p> <p>●既存の公共公益施設のストックの保全、機能・配置の更新</p> <p>●交通結節点としての公共交通ネットワークの集積の保全</p> <p>■防犯、文化等様々な分野で活発な市民活動の展開、イベントの実施等</p> <p>■東海道、遊行寺、江の島を始めとする、文化財、寺社等の地域資源の分布</p> | <p>●公共施設等の老朽化による災害時の危険の回避</p> <p>●交通の渋滞や交通事故の危険の回避</p> <p>■木造老朽率の改善による防災性の向上</p> <p>▲幅員の狭い道路の改善による防災性の向上</p> | <p>●駅周辺での一体の商業地として鉄道をはさむ南北地区の連携の強化</p> <p>●駅と周辺地区を連携する歩行者や自転車の動線などの改善、充実</p> <p>●駅構内での乗り換え動線の改善</p> <p>●江の島のあるまちとしてのまちなみの演出</p> <p>■藤沢市の良好な住環境をPRするためのまちなみ誘導</p> <p>■計画中の公園整備の推進</p> <p>▲鉄道南北連携する自動車・歩行者ネットワークの充実</p> |

● : 中心ゾーンに係わる課題 ■ : 周辺ゾーンに係わる課題 ▲ : 両ゾーンに係わる共通の課題 ☆ : 市全体に係わる課題

市の都市構造の中での将来像

藤沢市は、これまで都市計画線引き制度の厳格な運用のもと、無秩序な市街地拡大を抑制の一方、湘南海岸をはじめとする自然空間体系の維持保全に努め、都市の品格を保ってきています。とりわけ、市街地においては複数の都市拠点を育成し、都市機能集積を進める一方、都市拠点間を公共交通を主体とする「軸」で相互に連絡しあうことで利便性の高い住宅・産業市街地を実現しており、全体としてコンパクトな都市構造となっています。今後も、この都市構造の維持を基本に、都市拠点を構成する機能の適正な更新を図り、藤沢の魅力と活力を増強していく施策の展開が必要となります。策定中の藤沢市都市マスタープランには、市内に5つの都市拠点と1つの交通拠点が位置づけられており、それぞれ右下の図に示すような機能を発揮することとしています。中でも藤沢駅周辺地区は市の都心として、市の5つの都市拠点の中で最も拠点性の高い地区となっており、市全体及び湘南地域の広域商業・業務拠点とされているほか、片瀬・江の島の首都圏のリゾートレクリエーション拠点への玄関口として、また市独自の文化を発信する中心拠点として、交流人口を受け入れ、安全・安心そして楽しみまちづくりを進めていくこととされています。

このページの検討項目

| | | | |
|----------|-------|--------|-----------|
| 時代の潮流の評価 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向性 |
| 地域の役割の評価 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

◆都市拠点【健康と文化の森】

- 慶応大学湘南藤沢キャンパスの学術・研究機能を核とし、ビジネスインキュベーション機能や高度医療機能、情報関連分野における産学共同のビジネス開発機能等の集積
- 緑とゆとりのある質の高い拠点空間により、広域にわたる市の活力創造センター地区を形成



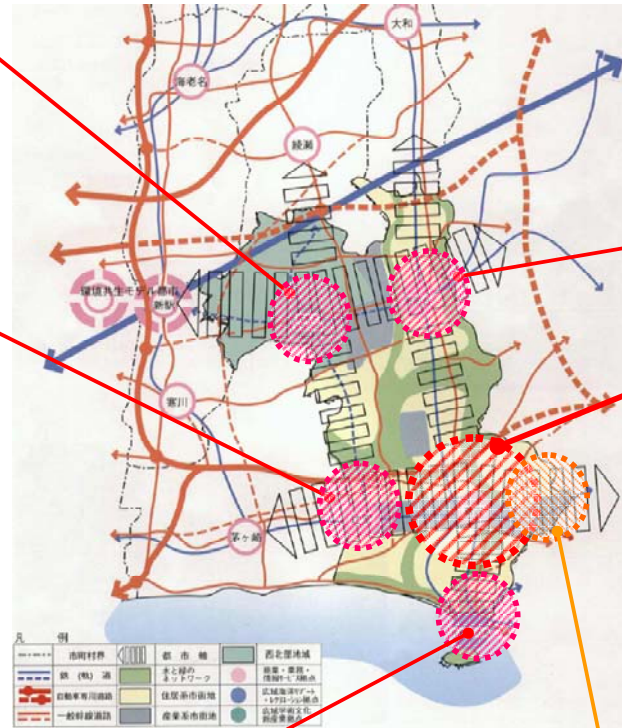
◆都市拠点【辻堂】

- 産業関連機能、広域連携機能、複合都市機能が集積する広域拠点
- 魅力と潤いのある一体感を持った都市空間を創出・維持
- 市西部、北西部、茅ヶ崎市東部への交通ターミナルとしての充実、辻堂南部との連携強化



◆都市拠点【片瀬・江の島】

- 首都圏のリゾート・レクリエーション拠点
- 自然環境と歴史的環境の維持・保全を基調にした観光交流促進
- 都市アメニティ、観光、海洋レクリエーション機能、交通環境の充実



◆都市拠点【湘南台】

- 市北部地域の商業・業務、行政サービス機能の中心地
- 質の高い都市空間形成
- 鉄道3線が結節する交通ターミナル拠点として、大学や北部工業系市街地への玄関口としてふさわしい、にぎわい・文化・交流のある街の形成



◆都市拠点【藤沢】

- 藤沢市の都心及び広域交流拠点として、これまで整備された都市基盤を活かし、機能・建物更新を図りながら、商業・業務、行政・文化機能に加え、観光交流・ゲート機能を維持・充実し、多機能回遊型の中心市街地を形成
- 40万人が暮らす都市であり、乗降客数が年間1億2千万人を超える藤沢駅にふさわしい風格を持つとともに、シンボルとなる都市空間を形成

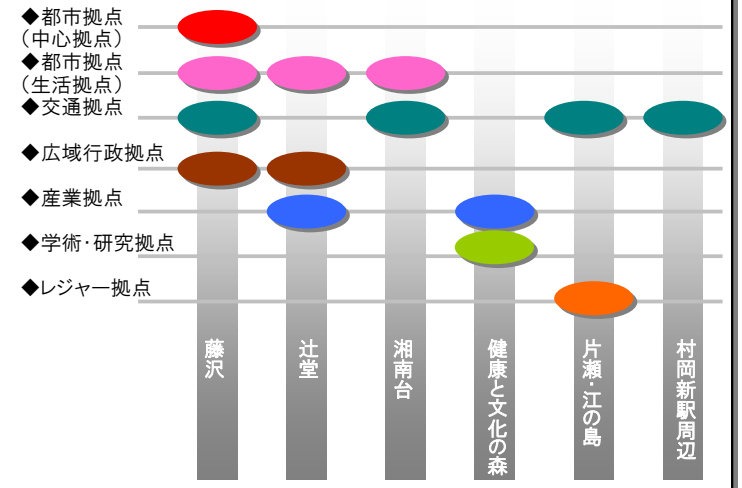


◇交通拠点【村岡新駅周辺】

- 広域性を有する交通拠点
- 鎌倉都市計画区域との連携
- 研究開発、生産、業務、地域サービス機能等を集積



【各拠点の機能分担】



市の優位性を伸ばす展開

藤沢市が他都市と比較して優位性のある部分をさらに伸ばしていくことにより、藤沢市らしい将来展望を描いていく。

【藤沢市はまだまだ活力がある】

- 人口が増加している（県下の都市の約半数が人口減少に転換しているなか、藤沢市の人口は県下4位の伸びを見せている。）
- 社会増を維持している（社会増は県下3位で市外から居住者を集めている。）
- 昼間人口が多い（東京、横浜で就業している人が多いが、昼夜間人口比は0.95で県平均の0.902を上回っていて交流人口が多い。）
- 産業が活発である（大型店は増加しており、従業者数の伸び率は県下1位(平成18年度/平成13年度)。）

【藤沢市には他にはない特色がある】

- 湘南ブランドがある（湘南都市圏の広域拠点に位置づけられており、湘南のブランドがある。）
- 観光拠点多い（江の島、湘南海岸、江ノ島水族館をはじめ観光拠点多く、年間約1,340万人以上の観光客を集めている。）
- 歴史がある（東海道五十三次の藤沢宿が小田急線藤沢本町あたりにあったほか、時宗の総本山遊行寺などの歴史資産が残っている。）
- 市独自の文化活動等が行われている（市民オペラ、あんどん物語等。）

【藤沢市には恵まれた自然がある】

- 豊かな自然に囲まれている（市街地は、北と中央と南を昔から守られてきた調整区域の田園や海にはさまれているほか南北に境川、引地川が流れ、自然がゆたかに残っている。）
- 海からの恩恵を受けている（ヒートアイランドの危険性が大都市や内陸部から迫ってきているものの、海に近いことや、河川などの風の道を通して気候が緩和されている。）

【藤沢市には代えがたい利便性がある】

- 道路ネットワークが発達している（東名高速道路、首都圏中央連絡自動車道（さがみ縦貫道路）、新湘南バイパスなどの広域幹線道路に近接した位置にあり、ICを介して広域との連携が良い。）
- 鉄道やバスネットワークが発達している（JR線、小田急線、江ノ島電鉄、相鉄線、横浜市営地下鉄、湘南モノレールなど多くの鉄道や、バスネットワークがあり、市内、市外の連携が良い。）
- 拠点が複数ある（市内には藤沢駅周辺を中心に、湘南台、辻堂と3つの拠点があり、日常生活や就業等の利便性が高い。）

藤沢駅周辺地区の可能性

藤沢市の優位性を本地区周辺で展開できる可能性を考える。

◆市の中心的な都市拠点としてのポテンシャルを活かした活力を向上させる

- 1日約38万人以上が乗降する藤沢駅を抱えており、いろいろな人を集客することができる
- 観光地への中継点となっている
- 既存の商業集積を抱えている

◆湘南地域への玄関口の立地を活かした湘南ブランドを展開する

- 江の島など湘南をコンセプトとしたまちなみの演出をする
- まちなかで湘南の風を感じさせる
- 東海道や遊行寺などの歴史資源や文化資源などを活用できる

◆中心市街地での緑地の確保や海の恩恵を享受し環境と共生するまちをつくる

- 中心市街地としては緑が多く、さらに充実を図る
- 海の恩恵を受けてヒートアイランド現象を予防する

◆中心市街地であることの利便性を最大限に活かしていく

- 市の中でも鉄道やバスなどの公共交通の拠点であり、各方面へのアクセスの良さを活かす
- 様々な公共公益施設が集中する利便性を活かす
- 平坦な地形であり、地区内の移動のしやすさを活用する

将来展望(案)

にぎわいと活力の創出

湘南の玄関口づくり

環境との共生推進

利便性の向上

このページの検討項目

| | | | |
|----------|-------|--------|-----------|
| 時代の潮流の評価 | 課題の整理 | 地区の将来像 | まちづくりの方向性 |
| 地域役割の評価 | | | |
| 経済環境の評価 | | | |
| ストックの評価 | | | |

基本的な対応

現代の時代の潮流においてどの都市でも基本的に取り組むべき対応を行い、優位性をさらに拡大する。

◆定住人口の減少に対する対応

◆少子高齢化の進行に対する対応

◆成熟型都市経済における対応

◆環境負荷をかけないまちづくりへの対応

◆人に優しいまちづくりへの対応

◆安全・安心に暮らせるまちづくりへの対応

◆気持ちよく過ごせるまちづくりへの対応

◆ストックを活かしたまちづくりへの対応

◆コンパクトなまちづくりへの対応

| 対象 | 内容 | まちづくりの方針(案) | まちづくりの方向性(案) | 将来展望対応 | | | |
|-----------------|--|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ |
| 都市基盤施設の整備の方向性 | 交通結節点のまちづくりの方向性 | 駅や駅前広場などの交通結節点は、利用者が分かりやすく、乗換えしやすいように配慮するとともに、多くの人が集まる場所であることから、ユニバーサル社会の推進や景観等に配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・JR線と小田急線、江ノ島電鉄の各駅が相互に利用しやすい動線となるようにしていきます。 ・駅と駅前広場は相互にアクセスしやすいように段差の解消や誘導を行なっていきます。 ・交通結節点として、市や地区、乗り換え等の情報、案内を提供できる機能や集客機能などを充実していきます。 ・地球環境に配慮してバス等の公共交通機関へのさらなる転換、充実を図っていきます。 ・市の都心及び広域拠点としてふさわしくなるよう、景観形成に配慮していきます。 | | ○ | | ○ |
| | 地区の南北連携の方向性 | 本地区は鉄道により南北が分断されており、南北ネットワークが充分ではないことから、自動車、歩行者のネットワークを充実することにより、駅南北連携の強化を図っていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地にふさわしい南北の機能を連携できる南北動線の充実を図っていきます。 | | | ○ | |
| | 自動車動線整備の方向性 | 段階構成のとれた幹線道路ネットワークを構築するとともに、道路が未整備な地区では既存ストックを活用しつつ、日常生活の利便性や災害時の安全性を確保できるように配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の見直しを受けつつ、安全で利用しやすい幹線道路ネットワークの整備を進めていきます。 ・幹線道路等の歩道については、バリアフリーとなるように段差の解消を推進するとともに、地域の実情に合わせて歩行者と自転車が共存できる空間となるよう検討を進めます。 ・幹線道路が未整備な区間については、事業手法等を検討し、合意形成を図って整備を進めていきます。 ・区画道路の幅員やネットワークが未整備な住宅地については、主要な集散道路の整備を図るとともに、既存道路の活用も含めた地先道路の改善を図っていきます。 ・危険な道路や交差点などは改善を進めていきます。 | | | ○ | |
| | 歩行者動線整備の方向性 | 交通量の多いエリアや利用度の高い主要な公益施設や民間施設に対しては、安全で快適に通行、誘導ができるように歩行者動線の充実に配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主要な道路についてはできるだけ歩道を設置するとともに、目的地となる施設へのルートについては歩行者専用道路や歩行者優先道路の整備、改善を進めていきます。 ・歩行者ネットワークは誰もが安全で快適に利用ができるように、バリアフリーの推進やサインの設置などを進めていきます。 ・平坦な地形を活かした中心部と周辺市街地のアクセスとして、環境負荷の少ない自転車をさらに活用できるように、施設やシステムの検討を進めます。 | | | | ○ |
| | 公園・緑地整備の方向性 | 環境や人に優しい地区となるように、公園の配置や、公共施設や民有地での緑化の推進に配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・緑の基本計画をもとに公園の配置を進めていきます。 ・緑が不足しがちな都心部において、景観や環境共生に配慮した緑地の配置や屋上緑化などを進めていきます。 ・地区の微気候調整を図り、ヒートアイランドを緩和するために、風の道の確保を進めていきます。 | | | ○ | ○ |
| | その他の施設の整備の方向性 | 地区内の公益施設については維持保全するとともに、適切に更新していきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・都心部の利便性を担保する要素である公益施設の保全を図るとともに、老朽化した施設については適宜更新を図っていきます。 | | | | ○ |
| | 土地利用誘導の方向性 | 商業地のまちづくりの方向性 | 中心商業地として健全な商業環境を維持していくとともに、人を引き付ける特色のある商業地の形成を図り、活気のあるまちとなるように配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した商業施設や陳腐化した施設は更新を図り、時代にあった安全で快適な商業地づくりを進めます。 ・本地区ならではの海や自然、湘南などテーマ性のある業種業態を集積し、集客力のある商業地づくりを進めます。 ・あんどん物語やオープンカフェなど、にぎわいを創出し人を引き付ける商業地づくりを進めていきます。 ・よりよい業種業態への誘導を図るとともに、景観に優れた健全な商業地づくりを進めます。 ・定住人口、交流人口が多く集まる場所であることから、段差解消やサインの設置などユニバーサルデザインに配慮した商業地づくりを進めます。 ・誰もが魅力を感じて集まってくるような都市機能や業種などが集積したまちづくりを進めます。 | | ○ | ○ |
| 住宅地のまちづくりの方向性 | 様々な世代の人が快適に生活できるような住宅の供給誘導を図るとともに、それを支える生活環境の充実を図っていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心ゾーンでは、少子化による地区の活気の低下に配慮して若い世代が住むことのできる都市型住宅の供給誘導や子育て支援の環境づくりを進めます。 ・周辺ゾーン南側では、ゆとりのある緑豊かな敷地の低層住宅地を中心としたまちづくりの誘導を図ります。 ・周辺ゾーン北側では、公園整備や狭隘道路の整備改善により防災環境の改善を図っていきます。 ・誰もが安心して快適に居住できるように、福祉施設や介護施設の配置を進めていきます。 ・低層住宅地では、高さや用途の混在が進行しないように検討を進めます。 | | ○ | | ○ | |
| 特色あるまちづくり推進の方向性 | 藤沢らしさづくりの方向性 | 湘南の玄関口である本地区立地を活かしていくために、湘南にふさわしいまちなみや機能などの導入に配慮します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・湘南の玄関口であることを活かしたまちなみの形成や、機能の誘導を進めていきます。 ・湘南の風を感じることでできる風の道づくりを進めていきます。 ・低層住宅地では、高さや用途の混在が進行しないように検討を進めます。 | | ○ | ○ | ○ |
| 市民参加の方向性 | 市民主体のまちづくりの方向性 | 分権が進む中、市民が主体的にまちづくりに参加してエリアマネジメントを進めていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民の参画により、まちづくり計画を進めていきます。 ・公共施設等の運営管理を進めていきます。 ・まちなかで行うイベント企画などを進めていきます。 | | ○ | ○ | ○ |

このページの検討項目

- 時代の潮流の課題の整理
- 地域の役割の整理
- 経済環境の評価
- ストックの評価

将来展望対応 ①：にぎわいと活力の創出 ②：湘南の玄関口づくり ③：環境との共生推進 ④：利便性の向上